

アトリエ 琉游舎 だより 108号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2021年6月30日発行

半夏生と妖怪ハンゲ

- 半夏生（はんげしょう）は72候のひとつ、夏至から11日目の毎年7月2日頃から、七夕までの5日間になります。私の周辺の田植は大概5月の連休中に一気にやってしまうようですが、昔は半夏生までに田植を済ませなければならない、農家にとっては大事な節目の日でした。
- 半夏生までに田植も畑仕事も終え、この日から5日間を休みとする地方もあったようです。農作業は重労働ですが、機械化された現在とすべてが手作業で一家総動員した昔とでは比べものにならないくらいの疲労だったのでしょうか。夏に向けての数少ない農家の休暇期間です。
- この期間に農作業をしているとハンゲという妖怪が徘徊するという言い伝えを持つ地方があります。半夏生までに田植えを終えることが出来ずに、農作業を続けていると、妖怪ハンゲが出てきます。しかしそれまでに田植えを済ませてそのあとちょっとの休みをとればハンゲに会わずに済みました。この妖怪は何か悪さをしたり人を怖がらせるものでは無さそうです。
- 実は夏の厳しい暑さの前に疲れた体を休めなさい、あるいは半夏生までに田植を終えないと稲がちゃんと育たないよ、と伝えるためにやって来た農作の神様かもしれません。神様の姿だと人間はつい安心して頼ってしまいますが、妖怪の姿で現れると、ビクっとしながらも作業の進み具合や自分の体の調子などに気づかされるのかもしれません。人に優しい妖怪です。
- 働き詰めで、緊張を強いられ続けると私たちの心身は悲鳴を上げてしまいます。昨年来、日本国中が緊張感の中で生活を続けています。これでは日本国民の心身も経済も持たないと、今、妖怪ハンゲがこの国を徘徊しています。7月23日～8月8日までの17日間は緊張を解いていいよ、これまでみんな我慢してよく頑張ってきたねと、五輪休暇を与えてくれています。
- 妖怪は人にとって神様にもなれば悪魔になることもできます。特に一時の甘い言葉は悪魔の言葉と疑わなければなりません。甘い言葉に乗らず”急がば回れ”もう少し我慢の日々を続けるか、刹那の享楽に身を委ね”えいままよ”とするか、それもこれもどうやら妖怪ハンゲ任せにするしかない国が我が国のようにです。そして妖怪ハンゲの正体が悪魔だと分かっているても誰もそれを悪魔だと言えない言わない”裸の王様の国”が我が日本国のようにです。

写経会 般若心経・自我偈・観音偈の手本を用意しています。初めての方もすぐにできます。
7月4日(日) 13時半

読書会 日蓮の「立正安国論」と消息文を読みます。テキストもすべてご用意。
7月13.27日 火曜13時半

7月15日の映画会はお休みです

居酒屋の会 しばらくお休みです

7/8 木	13時半	パンと恋と夢(87分)	ヴィットリオ・デシーカ、ジーナ・ロロブリジータ主演。山の上の小さな村に赴任してきた軍警察の署長は村のマリアという娘に惹かれるが、助産婦のアンナレッタも気になるが。
7/15 木	映画会お休み		
7/22 木	13時半	アスファルト・ジャングル (112分)	強盗常習犯が出所した。男は信用できる三人と新たな強盗を実行。成功するかに見えたが、、、M・モンローが悪徳弁護士の愛人役で出演、初々しい演技を見せる。
7/29 木	13時半	暗黒街の顔役 (93分)	ハワード・ホークス監督。ギャングがはびこる米国社会。ボスの一人コストロが用心棒のトニーに殺された。欲深い彼は野心の赴くままにボスの地位まで上りつめていく。
8/5 木	13時半	殺人カメラ (80分)	ロベルト・ロッセリーニ監督。撮影すると写真に写った人物が死んでしまう。殺人カメラで悪事を働く輩を懲らしめるが、次第に善悪の判断を見失っていく写真屋の主人。

今年が梅が大豊作のようです。昨年は実が全般的に小ぶりであり質がよくなく値段も高めのため、梅干しと梅ジュースと特製梅酒を1もずつ漬けるにとどめましたが、今年は大きくずっしりと重たい梅を大量に頂き10リットル分の梅酒を仕込みました。琉游舎の祭壇の下には梅酒を漬けた瓶がずらりと並んでいます。暗く温度変化がわずかで湿気も少ないこの場所は梅酒が熟成するにはうってつけの場所です。しかも毎日有り難い法華経を聞いているのです。質のよい梅の実エキスとアルコール分と経の功德が融合した靈験あらたかな梅酒が出来ること間違いなし！健康増進、安眠促進、離苦得楽の境地へ誘う特製梅酒は来春が飲み頃です。

古来、寺院は薬草園をもち薬などをブランド化して製造販売し術を施すなど医療機関の役目も果していました。神仏の靈験と経験知で培った薬などの医学的施術で人々の健康と安らぎを護っていたのです。薬と言えば酒も健康長寿の薬と私は信じています。仏教では「戒」で飲酒は禁じられていますが、そこは日本人のお家芸、外来文化と在来の習俗をうまく融合させたのです。学問的根拠はありませんが、おそらく神様に供えた御神酒を頂く風習を神仏習合の過程で取り入れ、仏様に供えたお酒を般若湯としていただくことで、五戒^{注1}のひとつ「不飲酒戒」を有名無実化したのでしょうか。因みに般若は仏様の智慧のことですから、お酒を頂くことは仏様の智慧を頂くことです。うまくすり替えました。昔の僧侶は智慧がよく回ったようです。

平安時代から江戸時代初期の頃まで大寺院が醸造販売していた酒は”僧坊酒“と呼ばれ高品質で人気が高い商品でした。もちろん品質だけでなく毎日経を聞いて発酵させているので靈験あらたかな酒でもあります。発酵食品の酒は先端技術バイオテクノロジーの分野です。これを可能にしたのはまだ民間資本が未成熟で分業化以前の産業形態の中では、寺院がすべてを兼ね備えた一大産業センターだったからです。まず荘園から送られる米と貴族からの寄進による資本の集中、布施で生活が可能な不労所得者（修行僧や僧兵）の潤沢な労働力、遣唐使や諸国行脚で得た情報と最高学府としての学術と技術の蓄積、社会からはみ出た奇才や権力争いに敗れた人達が避難する頭脳と人材受け入れのアジール（聖域）の場、これらの要素が揃った場所は大寺院以外ありませんでした。そこから送り出されるものは高品質で最先端の物資と精神だったはずで、寺院は産業で人々の体を支え、教えで心を支える、色心不二（物質と精神はひとつ）の実践の場だったのでしょうか。

法華経法師功德品第19の一節に「若説俗間経書 治世語言 資生業等 皆順正法」とあります。「（法華経の持経者）が、道徳についての書や政治の言葉や経済活動について説いたとしても、すべてそれらは正しい教え（正法）にかなった言葉である」という意味です。これらは私たちの生活の中に溢れている仏教以外のすべての考え方、「世法」と呼ばれるものです。これに対してお釈迦様の教えは「仏法」です。社会の中で生きていく為に必要な政治経済道徳などの世の中の法は仏の法と一緒に言うことを述べた経文です。この経文を、仏法の下に世法があるか、二法は現実社会の中で両立するか、などと議論しても意味はありません。法華経の教えを理解した上でこの言葉を読むと「世法即仏法、仏法即世法」なのです。お釈迦様の教えに従い社会で生きることは社会の教えを信じることであり、社会の教えに従い生きることはお釈迦様の教えを信じることです。どちらか一方だけに従うことは宗教者でもお釈迦様の弟子でもありません。仏教の教えの根底にあるものは諸行無常です。因縁縁起に依って起こるこの世のすべての現象は常に変化して不変のものはないという教えです。諸行無常の日々をありのままに観たとき、私たちの体（色）と心は分裂と融合を繰り返しながらも明らかに安らぎの処へ向かって色心が一体となっていく姿が観えてくることでしょうか。世法が物質や身体や社会をつかさどり、仏法が私たちの心をつかさどるものとするならば、この二法との間を常に行き交いながらも互いの法が一体化し一如となるべく日々を生きる（行う）ことが、安らぎの処へと歩むことそのものなのです。私たちが現実の世界の中で仏法を実践することは、色心不二を実践することなのです。

世法即仏法、色心不二を文字で読むと、それが「即」や「不二」で一体・一如を表すといわれても、すんなりと心に落ちてこないものです。日蓮聖人もそのところを弟子に伝えるために表現を工夫されていました。遺文に「爾前の経の心は心より万法を生ず 譬へば心は大地のごとし 草木は万法のごとしと申す 法華経はしからず 心すなはち大地 大地則草木なり（中略）此れをもつてしろしめせ 白米は白米にはあらず すなはち命なり」^{注2}法華経以前の諸経では、心から万法が生じてくる。たとえば心は大地のようなもの、そこに生えている草木は万法のようなものであるという。法華経はそうではなく、心がすなわち大地であり、大地はすなわち草木であるというのである。このことから考えてみると、送っていただいた白米はただの白米ではなく、すなわち命である。」万法はすべての存在のありのままの姿です。今までの経はその万法を心の働きによって見ていたから間違いだと聖人は語っています。お釈迦様の教えの原点に立ち返れば万法はありのままに立ち現れ、それをありのままに観たとき色心不二が実践されるのです。ですからある人にとってはただの白米にすぎない物質も、日蓮聖人にありのままに立ち現れた白米は“すなわち命”だったのです。

白米が命ならば酒も命、人それぞれに立ち現れる命は各々にとって命です。この命は色心不二の命、体と心の命です。白米が聖人にとって命であったことは、飢えをしのぎ身体を維持するためだけではありません。送った人の心を聖人が頂いたから命なのです。身体にだけに特化した命はいずれ滅び忘れ去られます。万法の中に在る命はいのちを繋ぎ永遠のいのちとなり

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

メール：toi10lizuru@outlook.jp

注1：五戒 不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒の五つ。注2・3：日蓮聖人遺文：白米一俵御書